

2018 年卒
Vol.6

5月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017年5月発行)

採用広報開始から2カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、選考解禁1カ月前にもかかわらず、内定率は4割近くに上っていることがわかった。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は35.9社。前年同期調査(42.8社)より6.9社少ない
- エントリーした企業は、3月より前に知った企業が7割強を占める

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 企業単独セミナーへの参加社数は14.1社。前年(15.1社)を下回る

3. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出社数の平均は13.4社。1カ月間で5.6社増加
- 選考試験の平均受験社数は、筆記8.9社、面接5.1社、グループディスカッション2.7社

4. 5月1日現在の内定状況

- 内定率は37.5%。前年(29.1%)を8.4ポイント上回る
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは27.8%。前年(17.1%)より10.7ポイント増

5. 内定を得た企業の属性

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」「建設・住宅・不動産」「調査・コンサルタント」の順
- 内定企業の従業員規模は「1,000人～4,999人」が32.6%で最多。
「5,000人以上」は24.0%、前年同期(20.7%)より占める割合が高い

6. 就職先を決めて就職活動を終了した背景

- 「就職決定企業に満足したから」が9割超(91.1%)

7. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「銀行」、2位「官公庁・団体」、3位「医薬品・医療関連・化粧品」
- 今後の活動方針は、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」30.2%
- 就職活動を終えたい時期は「6月前半」(28.7%)が最多。前年の学生より早期終了を希望

8. 就活川柳

- 全545作品から、佳作11首を紹介

調査概要

調査対象 : 2018年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,295人(文系男子419人、文系女子378人、理系男子330人、理系女子168人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2017年5月1日～8日
サンプリング : キャリタス就活2018学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

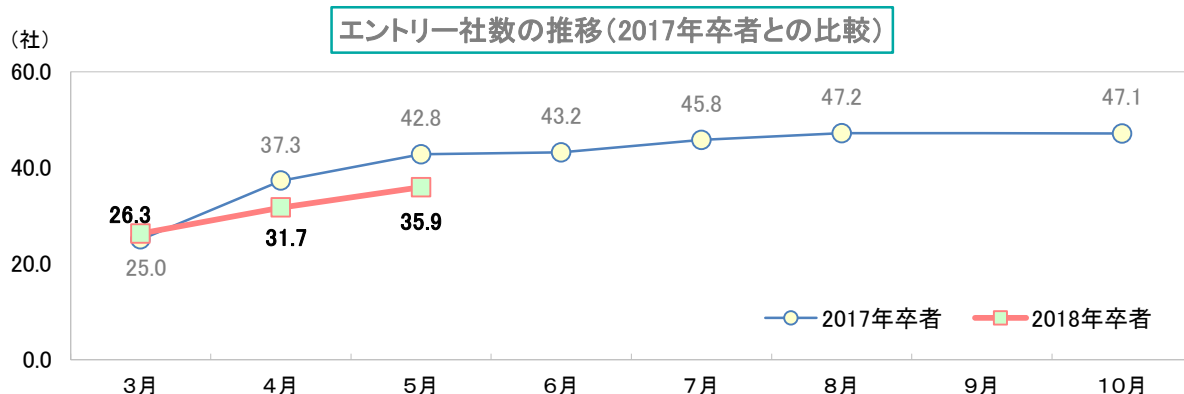
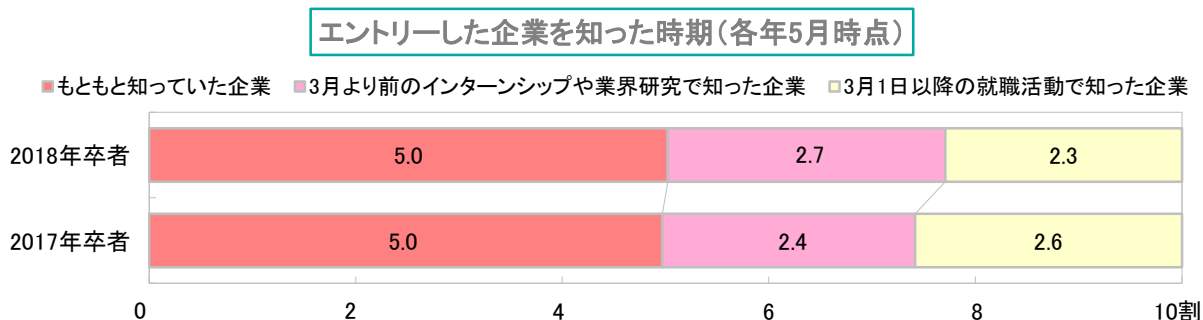
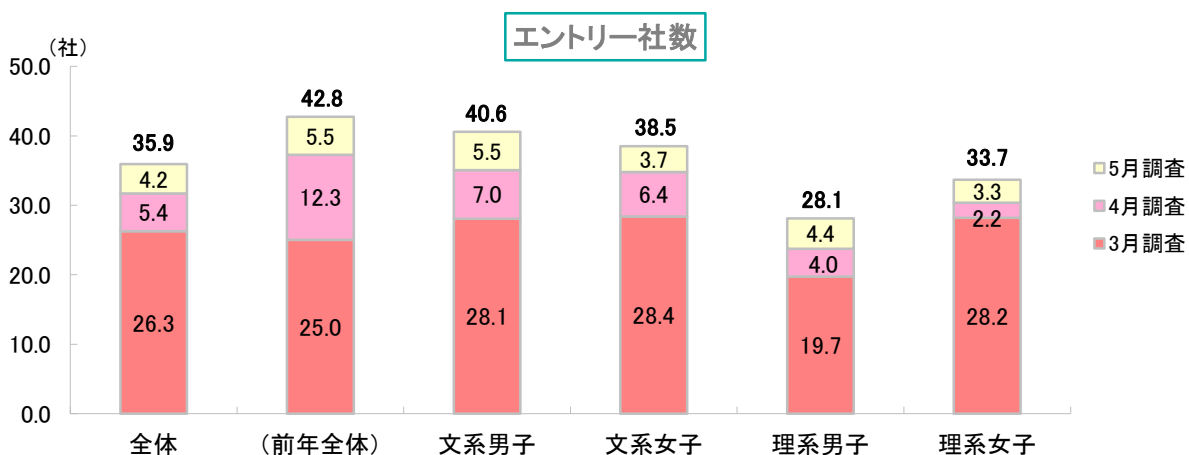
◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. エントリー状況

採用広報解禁から2カ月が経過した5月1日時点での就職活動は、どのように展開しているだろうか。前回調査（今年4月）および前年度調査との比較を中心に、全体的な活動状況を確認してみたい。

まず、一人あたりのエントリー社数の平均は35.9社。4月調査の31.7社から4社程度の増加にとどまり、前年同期調査（42.8社）を7社近く下回った。解禁直後の3月調査では前年同期をやや上回っていたが、その後の伸びは鈍い。前年（2017年卒者）の就職戦線では一人あたりのエントリー社数は大きく減ったが、今年はさらに減少し、2年前の2016年卒者（50.8社）と比べると7割の水準にまで落ちている。

エントリーした企業を知った時期を見ると、「3月より前のインターンシップや業界・企業研究などで知った企業」の割合が前年同期調査よりも増えている（2.4割→2.7割）。学生の就活解禁前の活動が活発になった結果であり、早期の絞り込みにもつながったと見られる。



※2017年卒者は9月調査なし

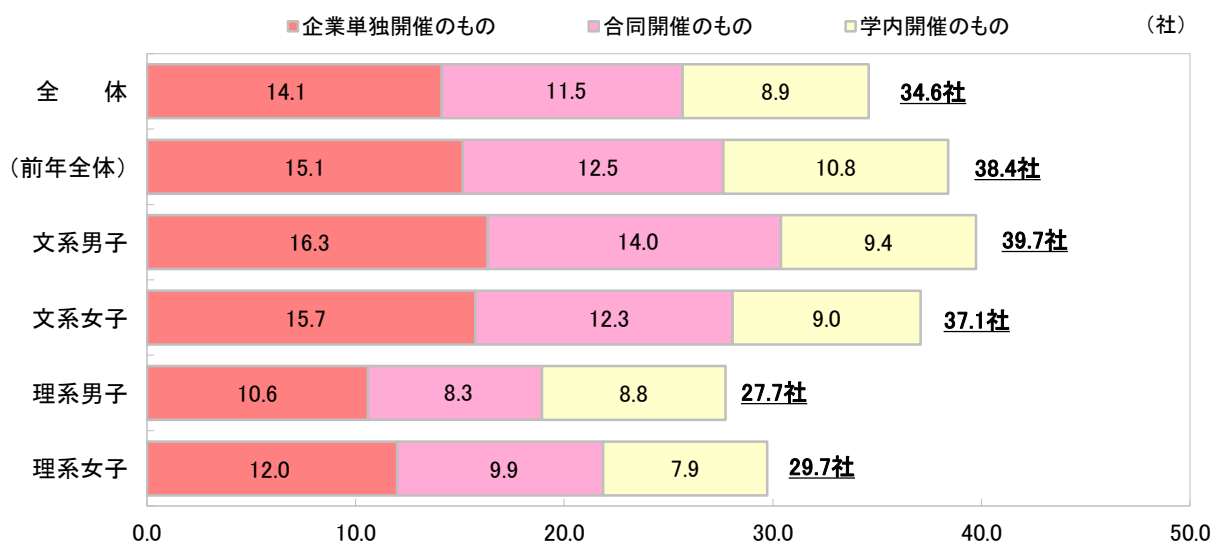
2. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会のこれまでの平均参加社数は34.6社。このうち企業単独セミナーを見ると、14.1社でエントリー同様に先月調査からの伸びは鈍い。3月から4月にかけて前年同期を上回り順調に増えているように見えたが、ここにきて早くもペースダウンし、前年同期（15.1社）を下回った。

採用の日程ルールは前年と変わらないが、企業が前年よりも選考時期を前倒す傾向が見られる。当社が3月下旬に実施した企業調査（有効回答670社）では、全体の4割が選考開始時期を前年より早めると回答していた。そうした企業側の動きに合わせ、4月はセミナーに加え、エントリーシートを提出したり、面接の準備に時間を費やしたりする学生が多かったのではないだろうか。

なお、学内開催のもの（学内セミナー）、合同開催のもの（合同企業セミナー）ともに、参加社数は先月調査からほとんど増えていなかった。

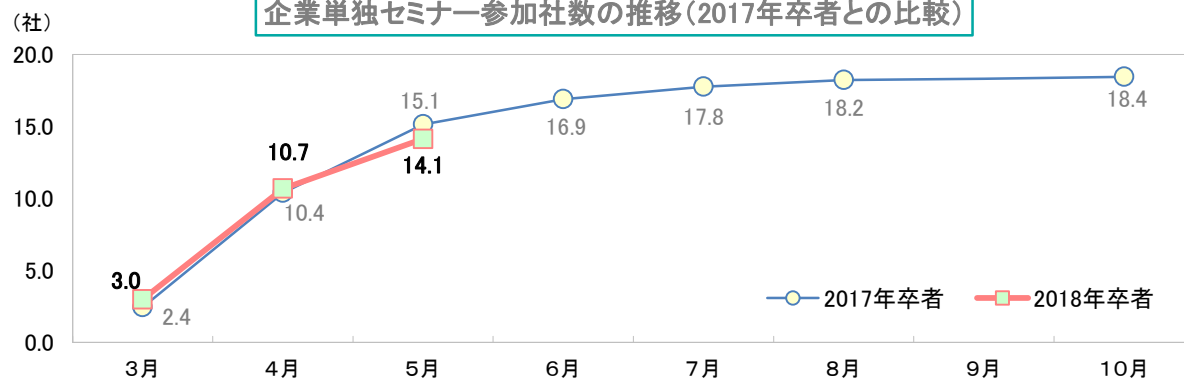
セミナー・会社説明会参加社数と内訳



合同開催・学内開催参加回数

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場	2.9	3.2	3.5	3.3	2.2	2.3
学内開催セミナーへの来場	3.3	4.0	3.5	3.7	3.0	2.7

企業単独セミナー参加社数の推移(2017年卒者との比較)



※2017年卒者は9月調査なし

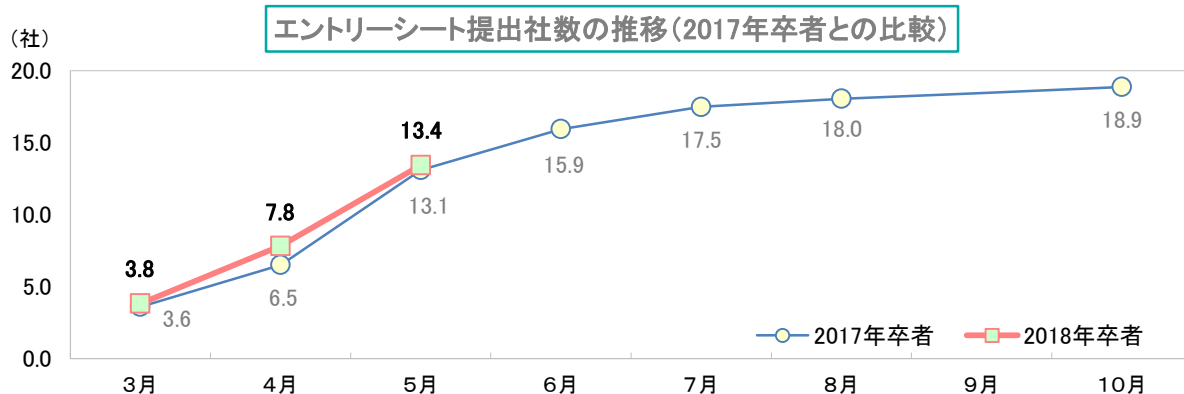
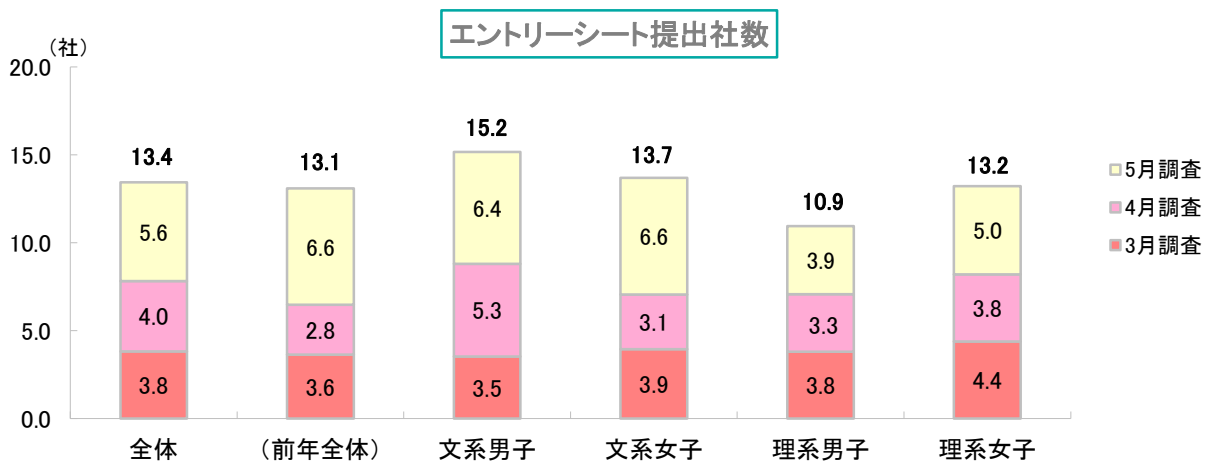
3. 選考試験の受験状況

5月時点で学生が企業の選考プロセスにどの程度進んでいるのか、その社数を確認してみよう。

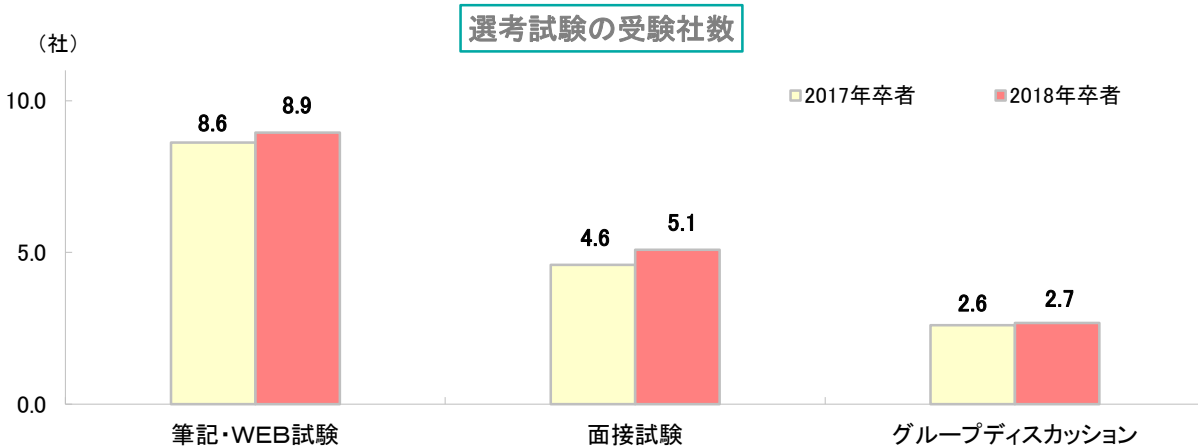
まず、エントリーシート (ES) の提出社数の平均は、先月 (4月) からの1カ月で5.6社増加し、13.4社になった。前年同期 (13.1社) を上回ってはいるが、前年実績との差は縮まった。提出のタイミングが前倒しになっていただけで、今後の伸びは鈍いと見るのが妥当だろう。

筆記試験や面接試験に関しては、いずれも前年同期をやや上回っている。エントリー社数が減少している割に面接受験社数が増えているのは、6月を待たずに面接を開始する企業が増えたという企業側の事情に加え、学生側も選考を受けたい企業に絞ってエントリーをした結果と見ることができる。

いずれにしても、選考試験受験社数が大きく増えるのはこれからだ。



※2017年卒者は9月調査なし



4. 5月1日現在の内定状況

就職活動スタートから2カ月が経過し、内定を得る学生は一気に増えた。5月1日現在の内定率は37.5%で、6月の選考解禁を待たずに内定を手にした学生は4割に迫る。先月(4月1日)の14.6%から1カ月で22.9ポイントの増加。前年同期(29.1%)に比べ8.4ポイント高く、前年よりも企業の内定出しのペースが早まっている様子がよくわかる。内定率は文系より理系で高く、男女とも4割を超えている(理系男子44.2%、理系女子42.3%)。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは27.8%。前年同期(17.1%)を大きく上回り、就職先決定のタイミングも早まっている。

5月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

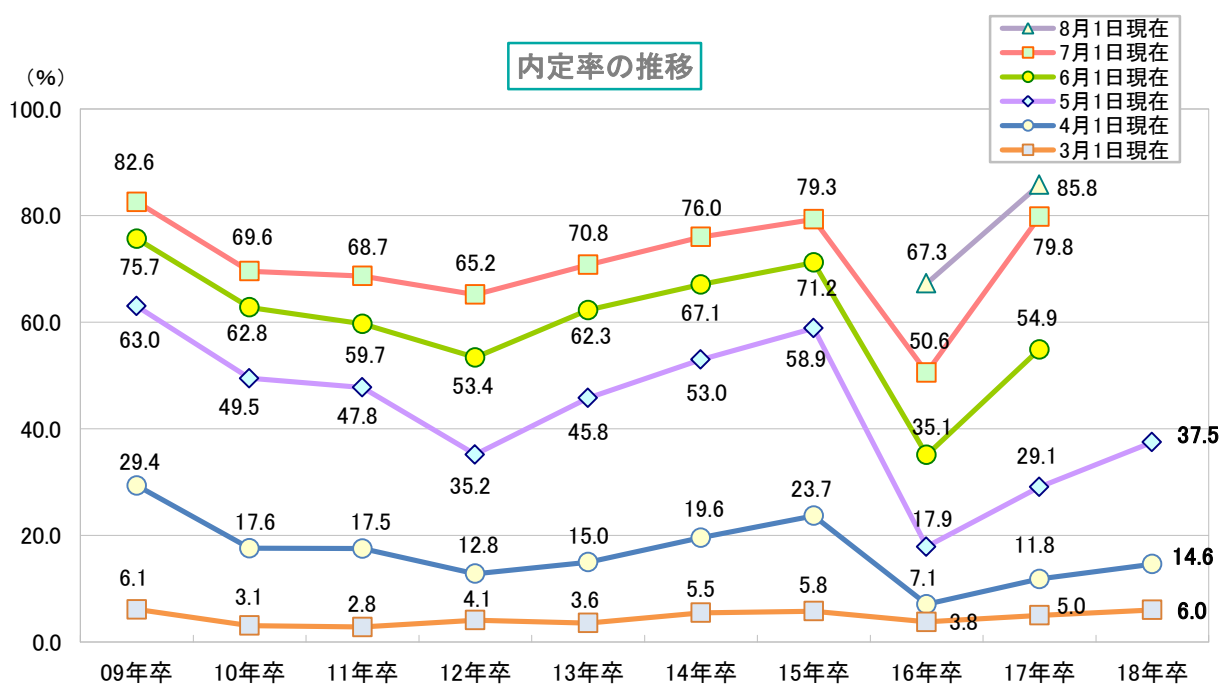
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		37.5 (29.1)	33.9 (29.2)	33.6 (26.6)	44.2 (31.4)	42.3 (30.3)
内定なし		62.5 (70.9)	66.1 (70.8)	66.4 (73.4)	55.8 (68.6)	57.7 (69.7)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	27.8 (17.1)	18.3 (12.5)	25.2 (10.4)	36.3 (29.9)	33.8 (18.6)
	活動は終了したが複数内定保持	2.9 (1.4)	2.8 (0.8)	0.8 (1.0)	3.4 (2.3)	5.6 (2.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (0.6)	0.0 (0.8)	0.0 (0.0)	0.0 (1.1)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	69.3 (80.9)	78.9 (85.8)	74.0 (88.5)	60.3 (66.7)	60.6 (79.1)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.5 (1.4)	1.6 (1.5)	1.3 (1.3)	1.6 (1.6)	1.6 (1.5)

(社)

※ () 内は前年(5月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒は6月

5. 内定を得た企業の属性

5 月 1 日現在で内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた。(全 40 業界。複数回答あり)

「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が最も多く、割合も29.0%と集中している。文系・理系とも1位であり、文理問わず多くの学生が選考を受け、実際に内定を手にしている様子がわかる。

2位は「建設・住宅・不動産」(14.2%)で、3位は「調査・コンサルタント」(13.4%)。先月(4月)調査とは順位が入れ替わり、「建設・住宅・不動産」がこの1カ月で多く内定を出したことがうかがえる。

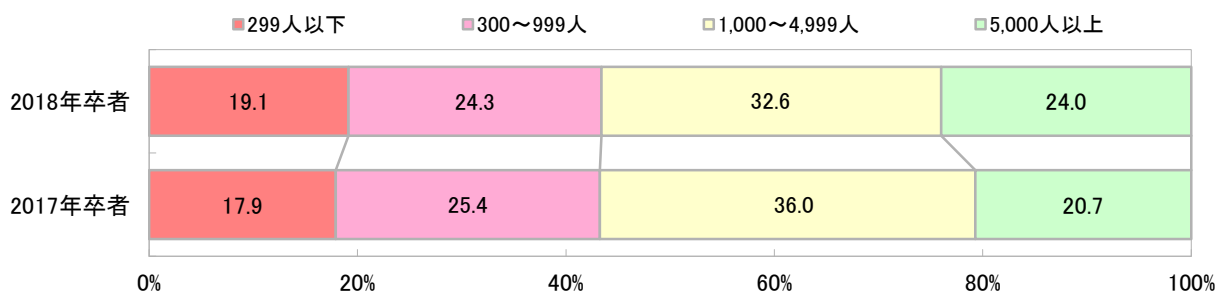
内定を得た企業の従業員規模の比率を出し、前年同期調査と比較してみた。従業員1,000人以上の大手企業が過半数を占めることに変わりはないが、今年はとりわけ「5,000人以上」の占める割合が高く、20.7%から24.0%へと増加した。より大企業において日程ルールの形骸化が進んでいるのだろうか。

内定を得た企業のインターン参加経験比率については、この3カ月の推移を見てみた。3月調査では内定企業の6割(60.9%)がインターンシップに参加した企業だったが、徐々に比率は下がり、この5月調査では44.6%。

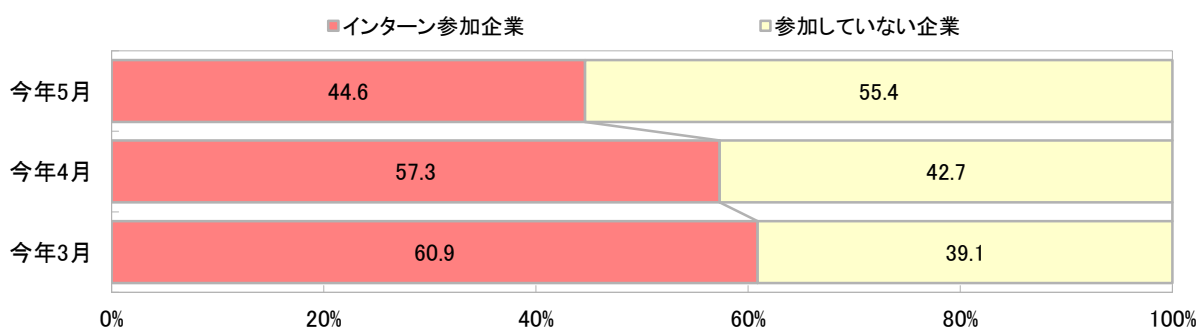
内定を得た業界 (上位 5 業界)

全 体		文 系		理 系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 29.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 24.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 34.1		
2	建設・住宅・不動産 14.2	調査・コンサルタント 15.2	建設・住宅・不動産 16.1		
3	調査・コンサルタント 13.4	建設・住宅・不動産 12.6	医薬品・医療関連・化粧品 14.3		
4	情報・インターネットサービス 7.8	情報・インターネットサービス 10.0	電子・電機 11.5		
5	医薬品・医療関連・化粧品 7.6	人材紹介・人材派遣 8.2	調査・コンサルタント 11.1		

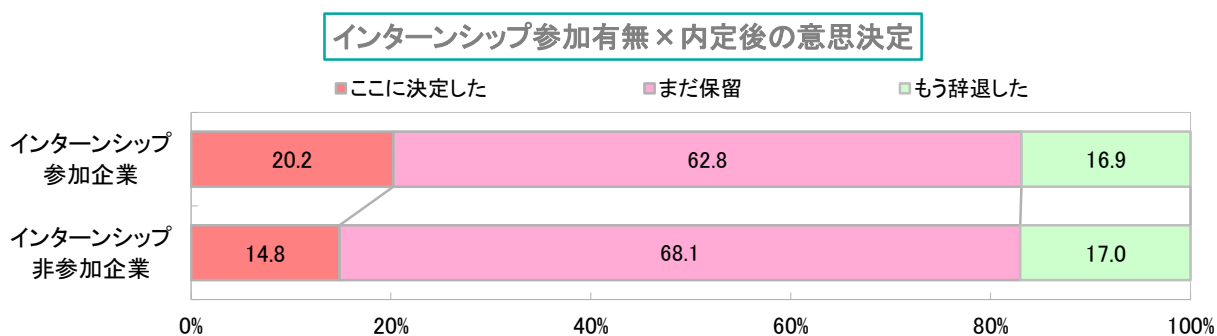
内定を得た企業の従業員規模



内定を得た企業のインターン参加有無

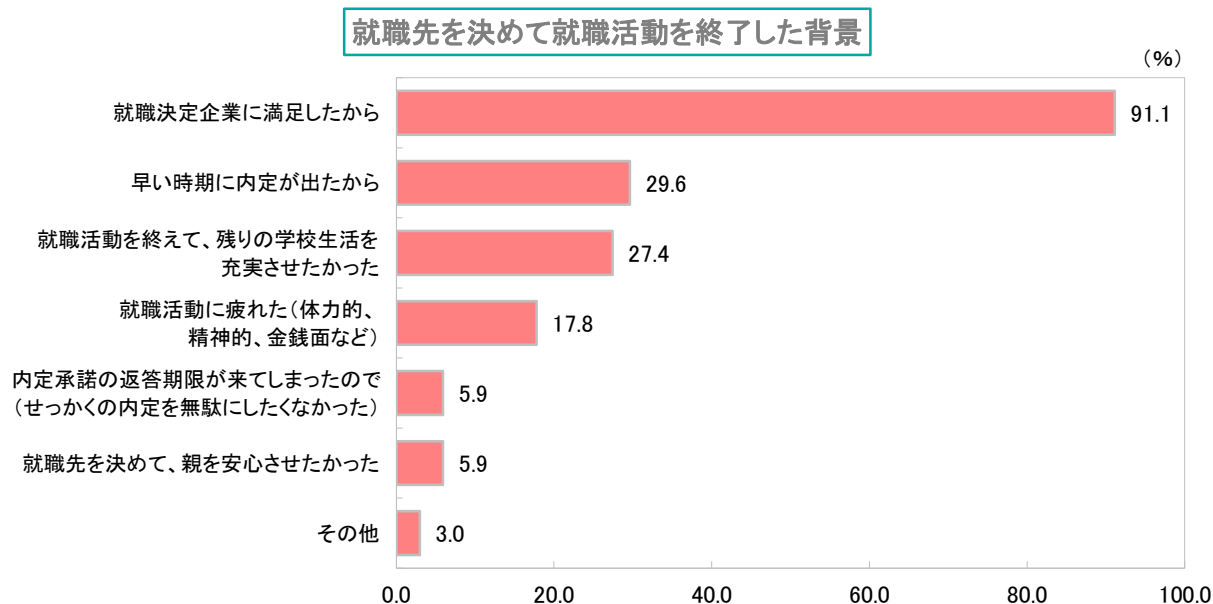


インターンシップ参加有無別に、現時点での就職意思決定状況を比較してみた。選考解禁前ということもあり、ともに「まだ保留」が 6 割を超えているが、「ここに決定した」の割合に差が見られる。インターンシップ参加企業では 2 割を超えているが (20.2%)、非参加企業では 1 割台 (14.8%)。インターンシップ参加企業からの方がより早い時期に内定を得ていたことが、現時点では影響しているのだろう。インターンシップと意思決定の関連性については、就職戦線が一段落した後に改めて検証してみたい。



6. 就職先を決めて就職活動を終了した背景

5 ページで見たように、内定取得学生のうち約 3 割 (27.8%) は、就職先を決定して就職活動を終了していた。選考解禁を前に就職活動を終了した学生にその背景を尋ねたところ、「就職決定企業に満足したから」が圧倒的に多く、9 割以上が選んだ (91.1%)。早期終了者は、就職決定企業に十分に納得して活動を終えたという人が大半だ。



■選考解禁 (6 月) より前に就職活動を終了した学生の声

- 早い時期に内々定をもらえたのでほっとしている。 <理系女子>
- インターンに参加しているかいないかで、かなり就職活動が変わってくる。僕自身多くの難関企業から内定をいただいたが、だいたいどの企業でも、内定者の顔ぶれはほぼ同じ。 <文系男子>
- 早期に動き始めていた人の方が、より志望度の高い企業から内定を得られていると感じる。 <理系男子>
- 第一志望企業から内定を頂き就職活動を早めに終えましたが、もし仮に続けていたとしても、面接解禁の 6 月までモチベーションを維持するのは難しかっただろうなと感じています。 <文系女子>

7. 就職活動継続学生の動向

ここからは、内定保持者を含め就職活動を継続している学生の動向を見ていこう。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、最も多いのは「銀行」(19.7%)で、以下「官公庁・団体」(14.6%)、「医薬品・医療関連・化粧品」(14.3%)、「素材・化学」(14.2%)と続く。

文理男女別に見ると、文系は男女とも「銀行」が首位で、3割近くが志望し人気集中している。理系は、男子は「電子・電機」(25.4%)、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」(39.0%)が最も多い。

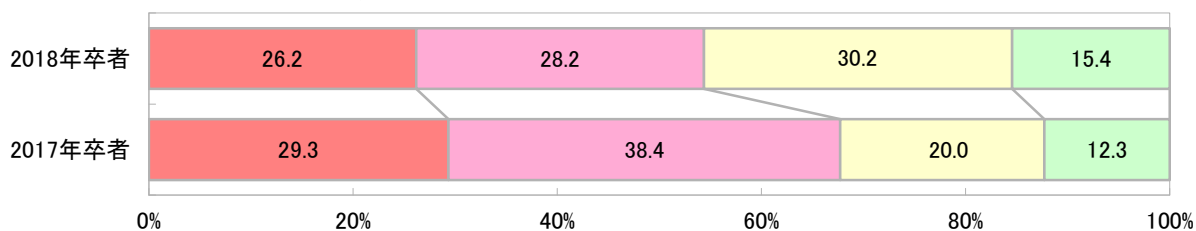
就職活動継続者の志望業界 (上位 10 業界)

		(%)									
	全 体	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子			
1	銀行	19.7	銀行	28.4	銀行	27.5	電子・電機	25.4	医薬品・医療関連・化粧品	39.0	
2	官公庁・団体	14.6	運輸・倉庫	19.3	保険	18.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.9	水産・食品	36.0	
3	医薬品・医療関連・化粧品	14.3	商社 (総合)	16.5	官公庁・団体	17.7	素材・化学	19.9	素材・化学	24.3	
4	素材・化学	14.2	官公庁・団体	15.9	運輸・倉庫	15.8	医薬品・医療関連・化粧品	17.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.4	
5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.1	保険	15.9	マスコミ	15.2	機械・プラントエンジニアリング	17.2	官公庁・団体	12.5	
6	水産・食品	14.0	調査・コンサルタント	13.1	水産・食品	12.0	情報・インターネットサービス	16.0	建設・住宅・不動産	12.5	
7	運輸・倉庫	13.7	商社 (専門)	12.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.1	自動車・輸送用機器	15.6	情報・インターネットサービス	11.0	
8	情報・インターネットサービス	11.7	建設・住宅・不動産	12.2	建設・住宅・不動産	10.8	水産・食品	14.1	精密機器・医療用機器	8.8	
9	保険	11.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.9	医薬品・医療関連・化粧品	10.4	精密機器・医療用機器	14.1	農業・林業・鉱業	8.1	
10	建設・住宅・不動産	11.1	情報・インターネットサービス	11.6	商社 (専門)	9.8	エネルギー	11.7	調査・コンサルタント	7.4	
	電子・電機	11.1			信用金庫・労働金庫・信用組合	9.8			電子・電機	7.4	

今後、就職活動をどのように進めていくつもりかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」(30.2%)。前年同期調査では「これまでに興味をもった企業を中心に」が最多だったが、今年は大きく割合を下げた。前年より選考のタイミングが前倒しになっていることが、この指標からもうかがえる。現在選考が進んでいる企業から内定をもらえなかった場合には、新たな企業に目を向ける必要性に迫られる学生も出てくるだろう。いずれにせよ、今後の動向が注目される。

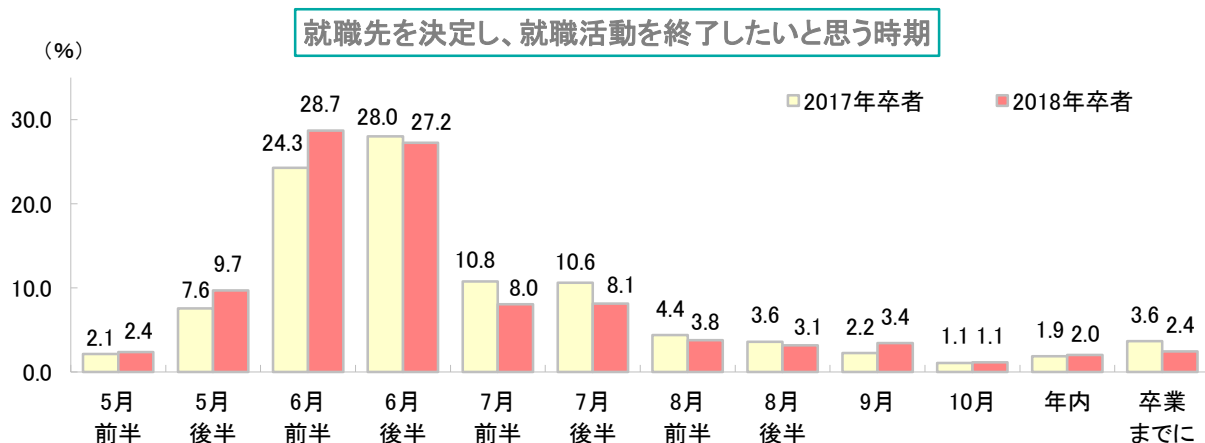
今後の就職活動の方針・戦略

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

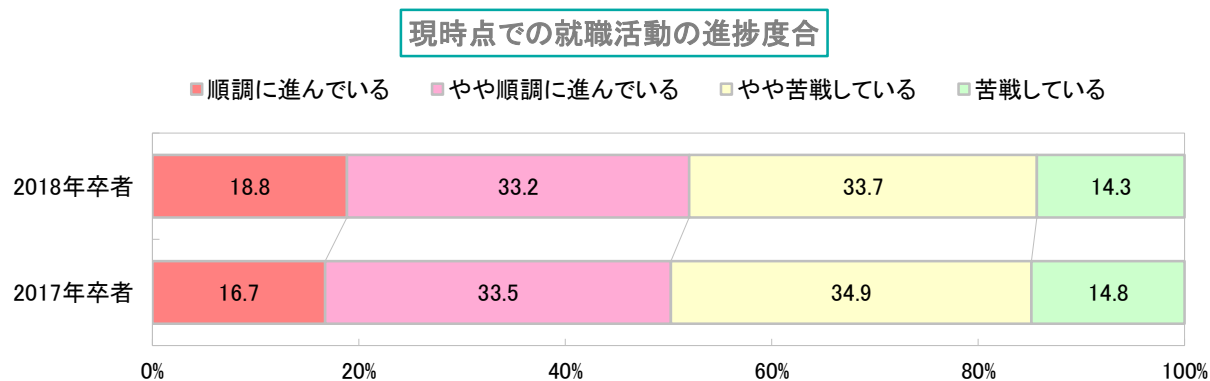


	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
今後のエントリー予定社数	3.1	1.7	3.7	3.4	3.6	2.5	2.4

就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「6 月前半」(28.7%) が最も多く、これに「6 月後半」(27.2%) が続いた。前年同期調査では「6 月後半」が最も多かったが、今年は「6 月前半」へと早まっている。なお、6 月後半までを合計すると 68.0% になり、前年調査 (62.0%) を 6 ポイント上回る。



続いて、自身の進捗度合をどのように感じているかを尋ねた。「順調に進んでいる」「やや順調に進んでいる」と回答した学生は合わせて 52.0%、「苦戦している」「やや苦戦している」は 48.0% と、感じ方は半々に分かれた。前年同期と比べ内定率は高いにもかかわらず、学生自身が感じる進捗度合には、前年と大きな差は見られなかった。



■ 「順調に進んでいる」と思う理由

- 内定も獲得できたうえ、他にも最終面接前の企業などいくつか持ち駒が残っているため。 <文系男子>
- OES やテストで落ちることもほとんどなく、面接などの選考も順調に進んでいると感じるため。 <文系女子>
- 書類選考や面接などの通過率もそれほど悪くないので、あとは現在選考に進んでいる企業をしっかりと受けければ内定はもらえると感じているから。 <理系男子>

■ 「苦戦している」と思う理由

- 周りが次々に内々定をもらっているなか、まだ一社も内々定をもらっていないため。 <理系女子>
- エントリーシートで予想以上に落とされており、持ち駒が激減しているから。 <文系男子>
- 書類やグループディスカッションは通るが、面接が一社も通過しないため。 <理系男子>

8. 就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 545 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

「売り手市場」と言われる就職戦線での複雑な思いや、短期決戦に対する不安など、どれも就活生の率直な心情が表れている。

